

「妙見宮の絵馬Ⅱ 明治・大正期の旅と信仰」 解説シート

八代神社（妙見宮）が所蔵する絵馬のうち、明治・大正期に奉納された絵馬 5 点を紹介します。いずれも全国各地の有名な寺社や名勝地を描いたものばかり。八代の人々が「妙見さん」に託した「旅の願い」がうかがえるユニークな資料です。

1 東海道五十三次之内 沖津 倉澤之宿より富士山を望む図

明治 12 年（1879） 益田常弘画 縦 94.8×横 171.6 市岡四郎ら 6 名奉納

有名な東海道五十三次のうち沖津（興津、静岡県静岡市清水区）から富士山を眺望した図です。作者の益田常弘についての詳細は不明ですが、右手には景勝地「三保の松原」、左手には活気ある宿場町「西倉澤」の様子が細かく描かれています。よく見ると路上には人力車の姿も見え、宿場のにぎわいが表されています。

この絵馬を八代妙見宮に奉納したのは市岡四郎ら 6 名。特に市岡四郎は「高知県土佐国安芸郡田野村」（現在の高知県田野町）の人と記されています。八代妙見宮の信仰が広範囲にわたっていることを示す好例です。



富士山絶景スポットを描いた絵馬

2 住吉大社図 明治 12 年（1879） 石谷道有画 縦 102.0×横 183.0 機弥八ら 20 名奉納

航海の守護神や文学の神様として古くから信仰を集めていた摂津・住吉大社（大阪市住吉区）の図です。住吉大神と神功皇后を祀る四つの本宮、独特な反橋（そりはし、太鼓橋）、「住吉社」の扁額が掲げられた鳥居、立ち並ぶ松林など、住吉大社の個性的な景観が細かく描かれています。

本図下部には 20 名の名前が記されていた痕跡があります。表面摩耗のためとても見えづらい状態ですが、彼らはおそらく八代の人々で、本図の奉納者たちと考えられます。



航海の神様・住吉大社を描いた絵馬

3 奥州松島・塩竈図

明治26年(1893) 吉井樵友画 縦115.0×横191.0 平岡乾蔵ら4名奉納

日本三景で有名な奥州松島(宮城県松島町・塩竈市)の風光明媚な景観を描いた図です。画面左下の二重の門は瑞巖寺、右端中央の石段上にある建物は塩竈神社です。

海には小さな帆船がたくさん描かれていますが、よく見ると沿岸部と水平線には蒸気船、さらに塩竈神社の左側には汽車が描かれています。仙台―塩竈間には明治21年に鉄道が開通していますので、当時の景観をふまえて描かれたものと考えられます。

これを奉納したのは、宮ノ町の平岡乾蔵ら4名。作者の吉井樵友は幕末の矢野派の絵師・杉谷雪樵に学んだ画家。巧みな画技が見てとれる、絵画作品としても注目すべき一品です。



日本三景・松島、塩竈神社を描いた絵馬

4 芸州巖島神社図

明治23年(1890) 作者不明
縦86.0×横103.5 野々口善作ら3名奉納

日本三景で有名な芸州宮島・巖島神社(広島県廿日市市)の景観図です。中央には海上の壮大な社殿・回廊と大舞台、そしてシンボルの大鳥居。よく見ると、社殿の周囲には参拝者やシカの姿まで細かく描かれています。八代・八千把村会地の野々口善作・本田平作・下川栄蔵の3名が奉納したものです。



日本三景・宮島、巖島神社を描いた絵馬

5 信州善光寺本堂図

大正8年(1919) 三島鳥水画
縦91.0×横121.0 池田内蔵ら9名奉納

信州善光寺(長野県長野市)は古くより宗派の別なく全国から信仰を集め、江戸時代には「一生に一度は善光寺詣り」と言われた名刹です。描かれている本堂は宝永4年(1707)に再建されたもので、現在は国宝に指定されています。

大正8年(1919)4月7日、池田内蔵ら9名は善光寺参拝を果たし、八代に戻った後、「八代二ノ町作画協会」の三島鳥水に本図作製を依頼して、同年7月13日に八代神社へ奉納しました。このように、「妙見さん」への絵馬奉納には、旅の安全祈願・無事御礼の意味合いがあったようです。



あこがれの参拝地・善光寺を描いた絵馬